
僕と私の主従関係

烏龍茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と私の主従関係

【著者名】

鳥龍茶

N9940Z

【あらすじ】

ネコと、魔女と、都市伝説のお話。

『×××××。』

最後に彼女は何と云つたでしょう？

(〇)

車に轢かれて死んだはずの僕は、「こやー」と再び喉を震わせ、か細い声を上げていた。

ボヤケる視界の中に映り込むは、奇怪なマッドサイエンティストではなく、まして、優しい眼差しをこちらに向ける母猫でもなくて。在り溢れた唯の魔女であった。

「おや、目覚めたかい。どうだい？。その身体に支障はみられないかい？」

そう言いながら、黒衣の魔女は皿にミルクを注いで僕の前に置いた。

「君があまりにも美しい黒色をしているものだから、あのまま死なせてしまうのは少しもったいなかなと思ったんだよ。どうだい、よければこの私の使用人にならないかい？」

僕は魔女の誘いに黙つて頷くしかなかつた。

そうしなければ、せっかく生き返つたといつのにまた殺されてしまうかもしれないのではないか。

考えすぎな話だったかもしれないが、一度手放して強く実感してしまつた命の愛惜しさが故に、少し物事には慎重になつてしまつた。

ひつして、僕と魔女の主従なる関係が始まった。

(1)

「仕事だ起きる。」

魔女の声で目が覚めた。

「悪いが飯を『与えている時間もない、時は一刻をも争う事態だ。なに、久々の『デカイ依頼だ。』ことが終わつたら、久々に一人で御馳走とでもいこうではないか。』

ホウキに乗つて彼女に連れられた場所は、月を思わせるような、黄昏色に地が照る何もない空間だった。ポン。と、ひとつ、玉座が一つ。

『いやあ～。』

U o y e r a o h w ?

あなたはだあれ？

H t u o m e h t p u s r a e t t i f i n e v e ,

d i a s e b t o n n a c s i h t .

そんなこと、

口が裂けても言えないわ。

T i l p s y d a e r l a s a h t i .

すでに、裂けているじゃないか。

『一タア、ヽヽヽ。』と、笑ウ。

「メカミマヂ伸ビル、口ヲ裂イテ、

彼女ハ笑ウ。

「私もね、もう、大分の力を失つてしまつたのよ。」

「そうね、最近は誰も見えないモノを信じなくなつたわ。」

「・・・勝手よね。」

「そうね。」

「ヽヽヽ、貴方達はいつたい、誰にいわれてここへ来たのかしら?」

「貴方の創造主。」

「それもそうよね。ここを知つてゐるのはあの人だけ。」

「ええ。」

「で?貴方達は何をしにここへ来たの?まさか、私の愚痴を聞き

に来たわけじゃないでしょ、う？」

「依頼主の切実な願いにより、貴方の削除が目的です。」

「あらあら、貴方達に私が殺せると云うのかしら。幾分力が弱まつたからと云つて、たかが魔女に私を？ 羞められたものだわね。」

「私たちの云つている削除対象というのは、あくまで想像主の中の『口裂け女』であつて、貴方自身ではありません。」

「どうこうとかしら？」

「私たちの目的は笹木 優子、貴方のリセットです。」

『いやあー。』

僕がなく、猫が鳴く。

僕が鳴いて、溶けていく。眩暈が起きる。頭痛が起きる。すると後頭部が、ズキズキと、、、痛み出す。

そう、私はあの日・・・。

(2)

結婚してから3年目の秋だった。

その日もいつも通り、職場へ向かう夫を見送つて、子供を保育所まで送りつけ、日中は洗濯・掃除等の家事をこなし、夕方には預けた子供のお迎えも兼ねて先に

近所の商店街で夕飯の為の買物へ。

この日、『いつもの日常』が狂い始めたのは、買い出しを済ませた後、保育所までへと向かう徒步の途中のことであった。

突然、

後頭部に鈍い衝撃が走り、私は気絶した。

「ん、んー。」

“ズキズキ”と疼く後頭部の痛みに目が覚めた場所は、見慣れないシンクのバスルームだった。

手首を背中の後側で何かで縛られていて、足は体育座りの形に畳まれた状態で脛と腿をガムテープとロープでぐるぐる巻きにされている。つまりは、身動きの取

れない状態にされていた。

『ガチャツ』

バスルームの入口の扉が開いた。

「あつ、起きたんだあ。」

開いた扉から現れたのはセーラー服姿の少女だった。

「ねえねえ、起きたよ。」

少女は後ろを向いて手招きをした。
何やらゆらゆらと影が近づいてくる。

「 × × ？ × × × あ、 × おお、 × × × × × ん。 × × × や、 ×
う、 × × × × あ？」

低い掠れ声。少女の後ろから現れたのは色黒い細身の男であった。
その男はどう見ても“普通”的な様子ではない。
薬物か何かをやつしていく頭がいつてしまっているのか、はたまた
重度な精神病にでも掛かっているのだろうか。絶えず、右往左往と
目が泳がせていて、視界の焦

点を定めることも儘ならないような様態であった。

目前の一人はこれから一体何を始めるつもりなのかと恐怖に
身をすくめていると、二人は徐に服を脱ぎ始め、そのまま“行為”
を始めた。

驚愕し、すぐさま直視しないようになり田て顔を逸らすも、喘
ぎ、悶え、悦ぶ二人の声音はイヤでも耳に入る。

キモチガワルイ、 、 、 。

これは悪い夢だろうか、 、 ？
・ 、 、 そうかもしねない。

しかし、もし、これが夢だとして、夢でないとしても、私はこの
後どうなってしまう、 、 、 ？

『ゴツッ』

鈍い音が響いた。そして、悲鳴。

何事かと目を開き、顔を上げれば、悪魔にでも取り憑かれたかと思つほどに凶惡な劍幕をして少女に跨り殴りかかっている男の姿を視界に捉えた。

(3)

T i p o t s 、 、 、 、

やめる。

Y r a c s u o y e r a ?

こわいの？

O s . y r a c s l i t i . .

恐いさ、 、 、 。

W o n k d l u o h s u o y , r e v e w o h .

それでも、貴方は知らなければいけない。

T a h w ?

何を、 、 ？

P u e k a w o t y r a s s e c e n s i t i .

思い出さなくてはいけない。

O h w ?

誰を、、。

P u e k a w o t y r a s s e c e n s i t i .

目覚めなければいけない。

O d t a h w m o r f , h t r a e n o ?

何から、、

サア？

(4)

「う、う、う、う、う、」

狂人男に幾度と殴られ蹴られで、醜く顔が歪んでしまった少女。
少女は唸り声を上げながら、腹部を両手で押さえて“くの字”に為つて横になっていた。

彼女をこんな風にした当事者の狂人男はと云うと、少女を置いてバスルームを出たまま帰つてこない。

逃げたのか、飽きたのか。

「ねえ、大丈夫?」

少女に声をかける。猿轡はされていない。

「×××××。」

え?

少女の口から放たれた声の意を理解できなかつた。
声が小さくて聞き取れなかつたわけではなかつた。
別に呂律がまわつていらない風でもなかつた気がする。

少女はヨロけながらも立ち上がり、一度バスルームから出た。
数分後に再びバスルームに表れた彼女の全身の白い肌は、ドロド
ロと真つ赤色に染め上げられていた。右手に持つていて裁ちバサミ
も同じ色合いをしている。

なんだか、少女のその立ち姿がとても可笑しかつた。だから、笑
つた。ハハハハハッ。と笑つた。
少女も笑つた。

私を縛っていた縄を、少女は持つていた裁ちバサミで切り解いて、
私を解放した。

次の瞬間には、視界が真つ赤に染まつた。

グルグルと視界が回り、

ドクドクと鼓動が高鳴り、

ズキズキと後頭部が痛み出し、

ドロドロといづつ音が全てを支配する。

気が遠くなつていく、ヽヽ。

- T i l l a c e r u o y d i d ?

(5)

窓から差す、淡い黄昏の月明かりだけが頼りである、薄暗い病室の天井を私は見据えていた。

ノソッと、ベッドから上半身を起こし、私は隣のベッドで寝ている老人へと声を掛ける。

老人の頭上のベッドに貼られた名札には、聴き慣れた彼の名が記されている。

「 . . . × × × 。 」

病室に一瞬の影が差す。

何処からか、微かに猫の鳴き声が聞こえた気がした。

了。

(後書き)

正直、途中で力尽きた感は否めなかつたつします、ヽヽ。

スマセン。

此処まで読んでいただきいた方、本当にありがとうございました。O

r
n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9940n/>

僕と私の主従関係

2010年10月9日17時40分発行